

試合戦評

種別： 男子 大会名 第 1 0 回 ミズノオープンソフトボール大阪大会 試合番号 28

試合日： 平成22年 5月 2日	第 3 日目	第 1 試合	準決勝	会場・球場： 大阪市舞洲運動広場 C
開始時間 8時57分	終了時間 10時38分	中断時間	:	試合時間 1時間41分
(球 審) 野口 加奈子	(一塁塁審) 鈴木 博	(二塁塁審) 西積 宏司	(三塁塁審) 大西 均	(副 審) 岡畑 博

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計	安打	失策
新金岡シャークス	4	3	0	2	3										12	14	0
セブンスターズ	3	1	0	1	4										9	11	2

チーム名	投 手	捕 手
新金岡シャークス	○梶田 忍	牛丸 正直
セブンスターズ	●藤澤 弘章・佐藤 健太・藤澤弘章	山西 大介

チーム名	(本 塁 打)	(三 塁 打)	(二 塁 打)
新金岡シャークス	中村 裕司②	牛丸 正直・勝部勇太郎	朝川 大樹②
セブンスターズ	浅井 正行・紙谷 恵介②	/	幸 義信・浅井 正行・山西 大介

(戦 評) 新金岡シャークス 来期直轄の座 掴む!

新金岡シャークスは、初回から長打攻撃で一挙4点を先取。  
その後も積極的な攻撃で2桁得点し、総合男子大阪予選会出場権を獲得。  
また、来年の直轄チームの座も手にした。  
一方、セブンスターズも長打の数では負けておらず、5回裏の追い上げは素晴らし  
かったが、失策がすべて得点に絡み、守備力の差が敗因となった。



公式記録員 馬越 わか  
 戦評記載者 馬越 わか

試合戦評

種別： 男子 大会名 第 1 0 回 ミズノオープンソフトボール大阪大会 試合番号 29

試合日： 平成22年 5月 2日	第 3 日目	第 1 試合	準決勝	会場・球場： 大阪市舞洲運動広場 D
開始時間 8時57分	終了時間 10時27分	中断時間	:	試合時間 1時間30分
(球 審) 水元 善裕	(一塁塁審) 山中 五郎	(二塁塁審) 服部 洋	(三塁塁審) 芳中 久弥	(副 審) 森田 清

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計	安打	失策
ディーレックス	3	2	6	4	1										16	16	1
鳶クラブ	0	0	2	0	0										2	2	0

チーム名	投 手	捕 手
ディーレックス	○佐々木 祐輔	上總 友宏
鳶クラブ	●川中 真・川崎 霧外	高島宏三

チーム名	(本 塁 打)	(三 塁 打)	(二 塁 打)
ディーレックス	小林 祐介	武田 誉史	平井 智之・八木 重友・木谷 智宏
鳶クラブ	芝 幸一		

(戦 評)

ディーレックスが快勝、決勝進出 !!

初回到3点を先制したディーレックスが、毎回得点を重ね勝利を手にした。  
特に5番小林の4安打6打点が光った。

鳶クラブは3回に芝が俊足を生かし左翼ライン際の打球をランニングホームランとしたが、好投手佐々木から2安打しか打てず、準決勝戦で姿を消した。



公式記録員 早川 輝  
 戦評記載者 江頭 裕美子

試合戦評

種別： 男子 大会名 第 1 0 回 ミズノオープンソフトボール大阪大会 試合番号 30

試合日： 平成22年 5月 2日	第 3 日目	第 2 試合	決勝	会場・球場： 大阪市舞洲運動広場 D
開始時間 11時11分	終了時間 12時56分	中断時間	:	試合時間 1時間45分
(球 審) 森田 清	(一塁塁審) 野口 加奈子	(二塁塁審) 山中 五郎	(三塁塁審) 鈴木 博	(副 審) 大西 均

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計	安打	失策
ディーレックス	3	5	5	0	1	3									17	19	0
新金岡シャークス	1	0	1	6	0	0									8	10	0

チーム名	投 手	捕 手
ディーレックス	○小林 祐介・佐々木 祐輔	上總 友宏
新金岡シャークス	●厩田 忍・山口 大輔	牛丸 正直

チーム名	(本 塁 打)	(三 塁 打)	(二 塁 打)
ディーレックス	小林 祐介・平井 智之・八木 重友 武田 誉史・木谷 智宏	木谷 聡志・木谷 智宏	平井 智之・木谷 智宏・上總 友宏
新金岡シャークス	田中 邦周	/	野中 克義

(戦 評)

ディーレックス 猛打で優勝！！

準決勝戦を大差で勝ち上がったディーレックスは、長打攻勢で3回迄に11点差をつけ、楽勝かと思われた。しかし、4回裏突如として小林投手が崩れ、逃げ切りが危ぶまれた。5回から登板した佐々木がピシヤリと抑え、優勝。

総合男子選手権大阪予選会での活躍が期待される。

追いつけた新金岡シャークスは、リリーフした佐々木投手の前に打線が沈黙、準優勝にとどまった。



公式記録員 江頭 裕美子  
戦評記載者 馬越 わか